

いつか桜の下で

ほりうち やすお
黒部市長(富山県) 堀内康男

Yasuo Horiuchi



私ユケケラ

平成9年、「いつか桜の下で」を合言葉に「桜1万本計画」の壮大な夢を掲げ、黒部まちづくり協議会「サクラワークショップ」による桜の植樹が始まりました。当時のメンバーは11人でした。

桜を通じたまちづくり、つまり、市民自らが桜の苗木を直接手で植えることにより、自然と郷土を愛する心をはぐくみ、花と水を誇れるまちをつくることを目指しました。

当時、私はその「サクラワークショップ」のリーダーでした。

桜のことも植物のことも全くの素人だった私は、桜の猛勉強をしながら、どこに、だれが、どんな桜を植樹し、どうやって管理するのか、仲間たちと熱心な議論をしました。

桜を育てるには植樹や花見をするだけでなく、桜に関するしつかりとした知識をもつことが大切です。メンバー一人ひとりが桜のよ



桜守 佐野藤右衛門氏に指導を受ける筆者(左)



サクラワークショップメンバーによる桜の手入れ

ず博士となれば、桜の楽しみ方も広がります。日本一の桜の管理をされている弘前公園の視察をしたり、県内外の樹木医からのアドバイスによる管理育成についての研修や剪定などを実施しました。

弘前公園に視察に行った際は、公園管理課小林課長より、桜の剪定について目から鱗うろこのようなお話を聞きました。桜の管理は剪定が「いのち」なのだそう、昔から「桜切るバカ、梅切らぬバカ」と言い伝えられていたのは何だったのかと私たちは驚かされたものです。

そして、なんとと言っても、京都の第16代佐野藤右衛門氏に出会い、たくさんのご指導を受けたことが、その後の活動の大きな弾みになりました。

佐野氏からは、地元の自然風土に合ったものを桜の都合に合わせて植樹し、管理することの大切さをご教授いただきました。その教えを後に伝えるために、佐野氏が

育てたシダレザクラやエドヒガンザクラをはじめ、十数種類の桜81本を植樹し、一帯を「桜の杜もり」と命名しました。

平成11年11月下旬、市内10校の6年生親子約1000人が、地元の新川育成牧場に、卒業記念植樹を実施するため集まってきました。



市役所新庁舎と百年桜

児童親子、市民団体、企業のボランティアスタッフが一齐に行う、ワークショップ最大の植樹事業となりました。約3mの苗木を運ぶ人、500カ所の穴を掘る人、大量の水を運ぶ人、記念プレートをかける人、記念写真を撮る人など、たくさんの人々に協力いただきました。この事業では、7年間で約3500本の卒業記念植樹が行われました。

日本人とさくら

サクラワークショップのリーダーになって桜の勉強をしてみると、桜は日本人に

とって植物の花の中で別格だということを知りました。

それは、日本人の生活の歴史に深く関わっているのです。

「サクラ」という言葉には、稲の神の座という意味があります。

サツキは稲を植える月、サミダレは田植に必要な雨、サナエは稲の苗、サオトメは田植えをする女性というように、「サ」は稲をあらわす古語です。

「クラ」はカグラ(神楽)、イワクラ(磐座)などと同じく神座をあらわします。要するに、桜とは稲の神が宿る座ということなのです。

長い間日本人の生活を支えてきた稲作は、冬から春になりその年の桜の花の咲き



サクラワークショップのメンバー（黒部市国際文化センター内にある“シンボル桜”の前で）

具合に、稲の神の意志を見ようとしたのであります。

また、桜の下での花見の行事も日本だけの習慣とされていますが、村人が集まって稲の神の下でその年の豊穣を祈ったのが花見の由来のようです。

桜は日本人の生活の歴史とともにあるのです。

日本人が花といえば春のものであり、その代表は桜でありました。それも、現在日本各地に広まっている、江戸末期に江戸・染井町の植木職人が人の都合でつくった園芸種ソメイヨシノではなく、ホンザクラとも呼ばれる山の桜でありました。

「サイタ、サイタ、サクラがサイタ」声を張り上げて読んだ小学一年生。校庭には桜の花が咲いて、希望あふれる心をよりいっそう明るくしてくれた気がします。

メールアドレスはクロベサクラモリ

黒部市の花には桜が選定されています。日本人の心の花である桜が選ばれていることを喜ばしく思うとともに、この桜をしっかりと守り育てていくことが大切です。

サクラワークショップでは、メンバーが「桜守」養成講座を受講するなどして、冬の風雨で倒木した桜を修正したり、下草刈りや薬剤散布、剪定などを随時行い、桜のメンテナンスをボランティアで実施してい

ます。

メンテナンスを継続することは大変な苦勞です。私も初代リーダーとしてこの気概を持ち続けるために、メールアドレスは今も kurobesakuramori@ (クロベサクラモリ) です。

かけがえないふるさとに誇りを持ち、さらに発展させていくために、市民一人ひとりが主役になって、桜を通じたまちづくりへの輪がますます広がっていくよう期待しています。

皆さん、ぜひ黒部の桜を見に来てください。



北陸新幹線と宮野運動公園の桜